

「人生 100 年時代の社会人基礎力」
意見交換会報告書

(2018 年 9 月 26 日開催)

一般社団法人 社会人基礎力協議会

1. 意見交換会の趣旨

「社会人基礎力」は、2018年に「人生100年時代の社会人基礎力」として新たなスタートを切った。当法人は、この概念の研究、普及を目的に、経済産業省と強く連携し、産官学の協働でさまざまな活動を推進している。「人生100年時代の社会人基礎力」の課題について共有し、一億総活躍社会の実現を目指すための取り組みについて意見交換会を行う。

2. 意見交換会開催日および会場

【日時】平成30年9月26日（水）15：00～17：30

【場所】本会議：専修大学神田校舎 8階 8A 会議室

懇親会：同校舎 15階 報恩の間

【交通】JR 水道橋駅 西口より徒歩7分、九段下駅出口5より徒歩3分

【参加費】無料

3. 参加者の状況

参加者：25名（20社）

会社名・団体名	
(株)ベネッセ i-キャリア	国際自動車(株)
NPO 法人セルフ・カウンセリング普及協会	キャプラン(株)
(株) i-plug	(株)東和エンジニアリング
(一社)日本能率協会	(株)学情
(株)日本能率協会マネジメントセンター	日本事務器(株)
(株)パソナ	パーソルキャリア(株)
(株)イトーキ	ヒューマンアカデミー(株)
(株)ウチダ人材開発センタ	(株)マルケト
エッセンス (株)	ウォンテッドリー(株)
(株)ビズリーチ	(株)ジェー・オー・アイ

敬称略

4. 当日のスケジュール

時間	実施内容
15：00	経済産業省 川浦恵様ご挨拶（意見交換会オブザーバー）
15：15	村山貞幸代表理事ご挨拶
15：30	意見交換会（進行：長尾素子理事）
16：15	事務局よりお知らせ（池田剛透事務局長）
16：40	懇親会

※ 司会進行：石田龍夫（専修大学エクステンションセンター事務部長）

※ 配布資料：次第、（一社）社会人基礎力協議会ご支援のお願い、寄付金・協賛金申込書、「社会人基礎力入門書」改訂版発行について

5. 経済産業省 経済産業政策局 産業人材政策室 室長補佐 川浦 恵様ご挨拶

2018年3月に社会人基礎力を新たなビジョンを打ち出し、その普及、定着を図るため、教育関係機関や企業の人事担当者などと連携し、パネルディスカッション、プレゼンテーションを全国各地で展開している。就活一括採用の見直しを図っていく中で、雇用市場を中長期的に考え直す時期である。点での活動でなく、面で広げるにはどうしたらよいか。ルールの見直しといったテクニカルな部分でなく、どういった人材を日本として育て上げていくかを考えていく必要がある。

6. 村山貞幸 代表理事ご挨拶

社会人基礎力協議会のパンフレットを参照にしながら、社会人基礎力協議会の事業概要と組織図を関連付けて説明を行った。

今後の展望：大学教職員、企業に参画していただき、活動を盛り上げていくこと。企業とコラボレートする中で、協議会でできること、できないことを明確にしていくこと、社会人基礎力の概念を研究、普及、情報発信をしていくこと。

概要1→研究委員会:社会人基礎力の概念を研究、普及し、刊行物を発行・情報発信を行う

概要2→リカレント委員会:研修プログラムの開発・実施、学生と企業のマッチングなど多様的に行う

概要3→グランプリ委員会:社会人基礎力育成グランプリの開催

7. 意見交換会

【自己紹介】 ※企業の事業内容と社会人基礎力との関わりを絡めて紹介をしていただいた。

【意見交換会内容】

- ・人生100年時代の社会人基礎力をどのように受け止めているか、企業の課題と役割をどのように結び付けていくのか。
- ・大学教職員の有志で成り立っている組織であるため、企業からの知恵を拝借しながら、また、企業が求めている人材をどのように育てていけばいいのかなど、協議会にどのような期待をしているか、さまざまな意見の聴取を求めた。

→当協議会の考えを提示

① グランプリについて

企業の審査委員としての協力要請、PBLにおける課題の提供依頼

② リカレント委員会について

企業と学生のマッチングの場の提供、企業向けの社会人基礎力のセミナーや勉強会の開催

③ 研究委員会について

アセスメントの開発、ニュースレターの発行、ジャーナルの発行、社会人基礎力入門書改訂版の発行（初版 2009年発行 学情・経産省）

④ 広報のあり方

HP以外の媒体

以下、意見交換会内容

① 社会人基礎力育成グランプリや研究内容はどのようなゴールを目標としているのか

【研究】

大学教員に広めていきたい。いくつか書籍は出ているものの、研究としてのまとまりには至っていないため、アーカイブの作成を行いジャーナルの発行やケーススタディなど、情報の収集を行ってきたい。

【グランプリ】

大学生向けグランプリの参加校を増やしていきたい。首都圏では現時点では学生応募が多くても受け皿なく審査ができないのであえて広がっていない。課題は地方であり、模索している状況である。全国の学生が出場したい機運を束ねていくことでコンテンツのレベルをあげ、学生のレベルも上げていく。将来的には高校生や必要であれば社会人を対象としたグランプリの開催も視野に入れる。

【リカレント】

企業の中で成績よくても商売ができない、欠点がある、アクションがない、シンキングがないなどと注文がある。そのことに対し、テクニカルスキル、コミュニケーションスキルなど概念的な研修などを行うことは可能であるが、企業が欲していることは結果を出すこと。結果を出せる人材を育てるには何が必要か。保有能力を発揮能力に変える真ん中のファンクションが必要であること。それが社会人基礎力であり、共通言語としての社会人基礎力を協議会と一体化し産学官で作りに上げていきたい。

人生 100 年時代とは企業にとって苦手なテーマである。日本企業の人材育成は地産地消型であり、人材の流動化の中で他で転用し活かすことを考える余裕はない。その人材を全国で活かすという供給源としての「横串」は協議会、企業のテーマである。退職後 40 年を見据えて企業の中でいかに人生設計をはかっていくか。それが産業人としての質を高め、日本の人口減に立ち向かっていく、そして、中小企業、大企業の人材の流動化の導火線としての役割を進めていきたい

② 社会人基礎力の考え方や概念が企業の中でどれほど浸透しているのか

文言は知っているが、どんなことかは知らない。ただ、社会人基礎力の中身は当たり前のようわかる。言葉を変えて求める人材像と表現している。

③ グランプリをとった学生たちは就活のために有利になるから出場するのか。また、そうした学生は就活に有利となっているのかウォッチングしているのか

追跡調査はできていないため、課題となっている。協賛企業に学生をマッチングしていることもしていない。結果として就職したケースはある。

共通言語にするためには既成概念、実績が必要、このような会社に就職するためにはグランプリに出場したほうが良いという意識を持たせ、認知度をあげていくようにすると「社会人基礎力」の言葉が共通言語となるのではないかと。

社会人基礎力=新人のための基礎力と勘違いしていることが多い。どの階層にも働く上で、生きていくために必要な能力として企業側へ採用の基準値としても訴えていく必要がある。

など貴重な意見が寄せられた。また、改訂版入門書の作成依頼を呼びかけた。

8. 事務連絡

池田剛透 協議会事務局長より連絡

事業計画の安定化として、寄付金・協賛金の申込みを募った。

今後の予定のお知らせを行った。

- | | |
|----------|------------------------|
| 10月5日（金） | リカレント教育のワークショップ開催のお知らせ |
| 12月2日（日） | 関東地区予選大会グランプリ |
| 2月19日（火） | 全国決勝大会グランプリ |

以上